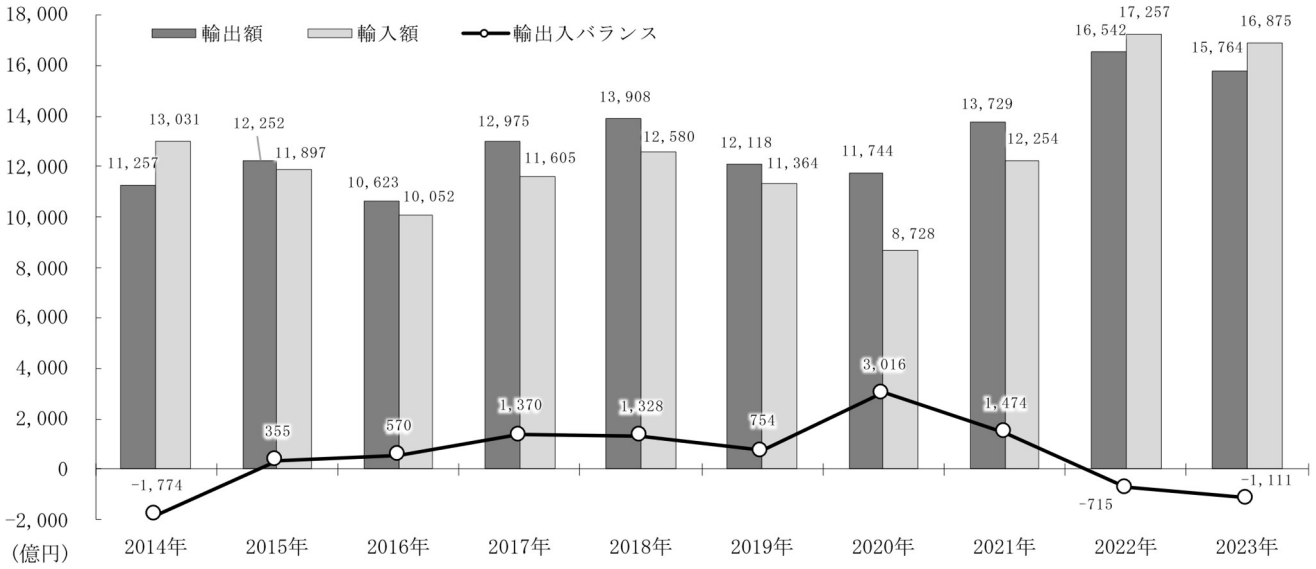
2023 年北九州港の貿易概況

区分	全国	九州経済圏	福岡県	北九州港	全国に占める構成比
輸出総額	100 兆 8,738 億円(＋2.7%)	11 兆 6,040 億円(＋9.9%)	7 兆 5,244 億円(＋10.3%)	1 兆 5,764 億円(▲4.7%)	1.56%
輸入総額	110 兆 1,956 億円(▲6.7%)	11 兆 1,094 億円(▲7.4%)	4 兆 1,080 億円(＋ 5.3%)	1 兆 6,875 億円(▲2.2%)	1.53%
輸出入総額	211 兆　695 億円(▲2.4%)	22 兆 7,135 億円(＋0.7%)	11 兆 6,324 億円(＋ 8.5%)	3 兆 2,639 億円(▲3.4%)	1.55%

2023 年の北九州港（北九州空港含む、以下同じ。）の貿易実績は、輸出総額が前年比 4.7%減の１兆 5,764 億円、輸入総額が同 2.2%減の１兆 6,875 億円、輸出入総額が同 3.4%減の 3 兆 2,639 億円となり、いずれも３年ぶりに減少した。貿易収支は 1,111 億円の赤字となり、２年連続の赤字となった。

輸出に関して、輸出額の上位５品目は鉄鋼、一般機械、ゴムタイヤ及びチューブ、電気機器、非鉄金属であり、これらの合計は１兆 871 億円と全体の 69.0%を占めている。国（地域）別にみると、中華人民共和国が前年比 18.3%減の 3,801 億円で、23 年連続の第１位となった。第２位は大韓民国で同 18.7%減、第３位はアメリカ合衆国で同 19.4%増、第４位は台湾で同 1.2%減、第５位はインドで同 22.3%減となった。地域別にみると、東アジア主要地域（中華人民共和国、大韓民国、台湾、香港、ASEAN10 ヵ国（ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー））への輸出額 9,026 億円が全体の 57.3%（前年比 7.5%ポイント減）を占めている。
コロナ禍からの挽回生産、経済活動の正常化、円安を背景に、輸送用機器や電気機器、一般機械などの輸出額が前年比で二桁%のプラスとなった。一方、中国、韓国、ASEAN などアジア向けについて、コークス、石油製品などの鉱物性燃料、有機・無機化合物、プラスチックなどの化学製品、鉄鋼などの輸出減が影響し、輸出総額は前年比でマイナスとなった。

輸入に関して、輸入額の上位５品目は電気機器、石炭、天然ガス及び製造ガス、輸送用機器、一般機械であり、これらの合計は 8,420 億円と全体の 49.9%を占めている。国（地域）別にみると、中華人民共和国が前年比 5.7%増の 6,113 億円で 30 年連続第１位となった。第２位はオーストラリアで前年比 26.9%減、第３位はタイで前年比 5.6%増、第４位はアメリカ合衆国で前年比 52.7%増、第５位はマレーシアで前年比 18.9%減となった。地域別にみると、東アジア主要地域からの輸入額１兆 956 億円が全体の 64.9%（前年比 2.1%ポイント上昇）を占めている。
輸入額の減少に最も寄与しているのは石炭輸入額の減少であり、前年比 40.9%（1,096 億円）減であった。円安や資源価格の高騰を背景に、2022 年に石炭の輸入数量は減少したものの輸入額が大幅に増加した。2023 年はエネルギー価格の正常化によって輸入額が例年の水準に戻りつつあることに加え、暖冬であったこと、中長期的な脱炭素化のトレンドを背景に輸入数量が減少している。

北九州港の最大貿易相手国は、23 年連続で輸出・輸入ともに中華人民共和国であった。輸出入総額は全体の 30.4%と前年より 0.5%ポイント低下しており、これは２年連続の傾向である。同国からの輸入額は円安の影響などから増加しているものの、不動産不況や厳しい雇用情勢などを背景とする国内需要の低迷、自国生産体制の拡大などを受け、日本からの輸出額が減少しているため、輸出入総額では前年比 5.0%(526 億円)減となった。
一方、アメリカ合衆国、および西欧地域との貿易額が増加している。前者については、北九州港から同国への輸出額、輸入額はそれぞれ前年比 19.4%、52.7%増であった。輸出では電気機器、非鉄金属の、輸入では一般機械、鉄鉱石の寄与が大きい。後者については、北九州港から同地域への輸出額、輸入額はそれぞれ前年比 45.2%、50.6%増であった。中でも、輸出では半導体等電子機器、輸入では自動車の部分品の寄与が大きい。

図－１　北九州港の貿易額の推移